

トビイロウンカに要注意！

トビイロウンカ（秋ウンカ）とは

- ◆ 日本では越冬できず、主に6～7月の梅雨期に下層ジェット気流に乗って中国大陸南西部から成虫が飛来する。
- ◆ 水稻で増殖し、雌の短翅型成虫が多くなると急激に増える。
- ◆ 8～9月に気温が高く雨が少ない年には、発生が多くなる傾向にある。



ウンカ対策の基本は増殖させないこと！

中国大陸では
作年より多発生!!
※6月に福岡・佐賀・
長崎・熊本・鹿児島県
で飛来確認

トビイロウンカの発生パターン

1世代のサイクル：約30日間
卵期：7日間 幼虫期：14日間



海外から
成虫飛来

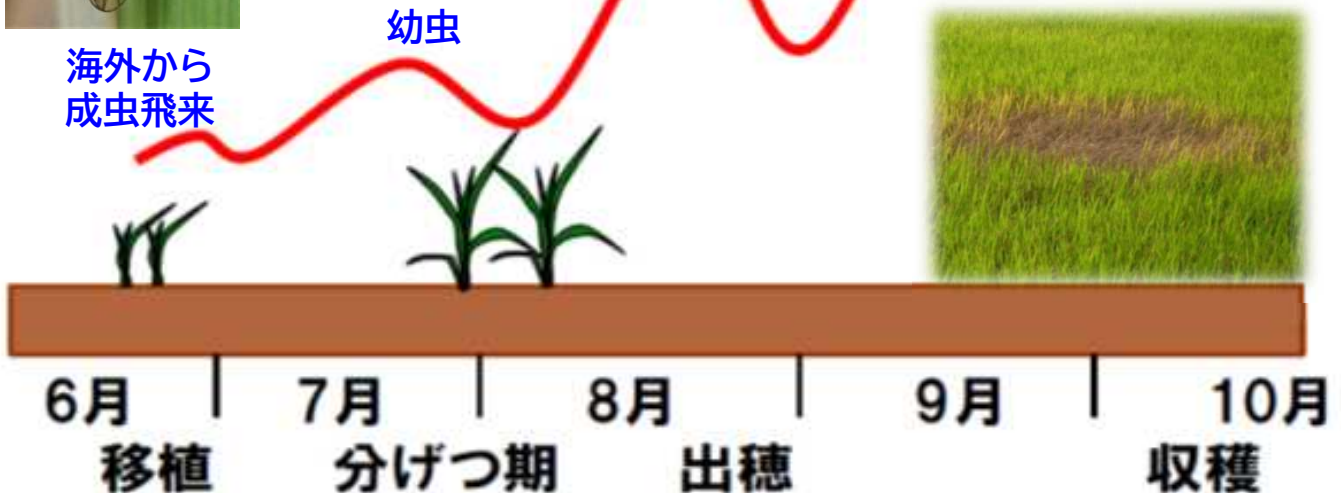


第1世代
幼虫



第2世代
幼虫

坪枯れ



- 出穂期前後の基幹防除は必ず実施しましょう。 ウンカが生息する株元まで薬剤が十分届くように散布しましょう。
- 株元へ薬剤散布ができない場合には出穂前の粒剤散布を行きましょう。

イネいもち病にも注意！

今年、近県の宮崎、熊本、鹿児島県の早期水稻で多く発生が見られており、大分県でもいもち病が発生する好適条件となっている地域が見られ、早期水稻では葉いもちが発生している地域もあります。

□ 葉いもちは病斑上に多数の分生子を形成して新たな伝染源となり、葉、穂などに感染します。
葉いもちが多く見られる場合は早めの防除と、穂ばらみ期を中心とした穂いもち防除の両方が重要です。

□ ほ場を適宜見回り、地域の暦に従って、適切な防除を行いましょ。



地域の発生情報をチェックし、ほ場をよく観察！

★発生情報のチェック

大分県病害虫対策チームが発表する発生予察情報などの病害虫の防除に関する情報をこまめに確認し、地域の発生状況を把握しましょう。



大分県 農林水産部 水田畑地化・集落営農課、 地域農業振興課
農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム